



田子町

議会だより



厳かな雰囲気の中、力強く堂々とした中に艶やかな舞を披露

目次

- 1. 櫻山神社田子神楽奉納 P2~3
- 2. 第4回定例会 P5~7
- 3. 第34回東京田子会 P9
- 4. 世紀越えトンネル全体会 P11
- 5. 新年のあいさつ P12

第102号

令和2年1月23日発行
青森県田子町議会



受け継がれる伝統と想い



伝統を受け継ぎ、令和へと繋がる先人の想い
南部家当主と深い繋がりがある田子神楽を櫻山神社へ
奉納して参りました。





とりのまい舞



かさまい舞



おきな翁



ほんまい盆舞



はや子

次ページは田子神楽と深い関係がある南部藩について、1市2町が改めて歴史の繋がりを研修しています。

南部盛岡藩ゆかりの櫻山神社の例大祭に参加して参りました。南部家中興の祖と呼ばれる南部家第26代当主「南部信直」と信直の長男として田子城に産まれ、盛岡城の築城と盛岡の町割りを成し遂げた27代当主「利直」の両名を祀る櫻山神社においての田子神楽の奉納は、町制施行90周年記念事業として「田子神楽保存会」の皆様のご協力と参画を得て昨年から始まったものです。荘厳かつ幻想的な舞は、見る者の心を打ち、会場は大きな喝采に溢れておりました。我が町の郷土伝統芸能の顔である「田子神楽」。貴重な文化遺産は歴史とともに後世にわたり人々を魅了していくことでしょう。

(宇藤 大介)

二戸市・三戸町・田子町議会議員協議会

いずれにしても
鉋屋
糠部
九戸・四門
南部領
(明治維新まで)

地域の呼び名は変われど…

二戸、三戸、田子
同胞 (はらから)

「正保陸奥国南部領絵図」
1647年 もりおか歴史文化館



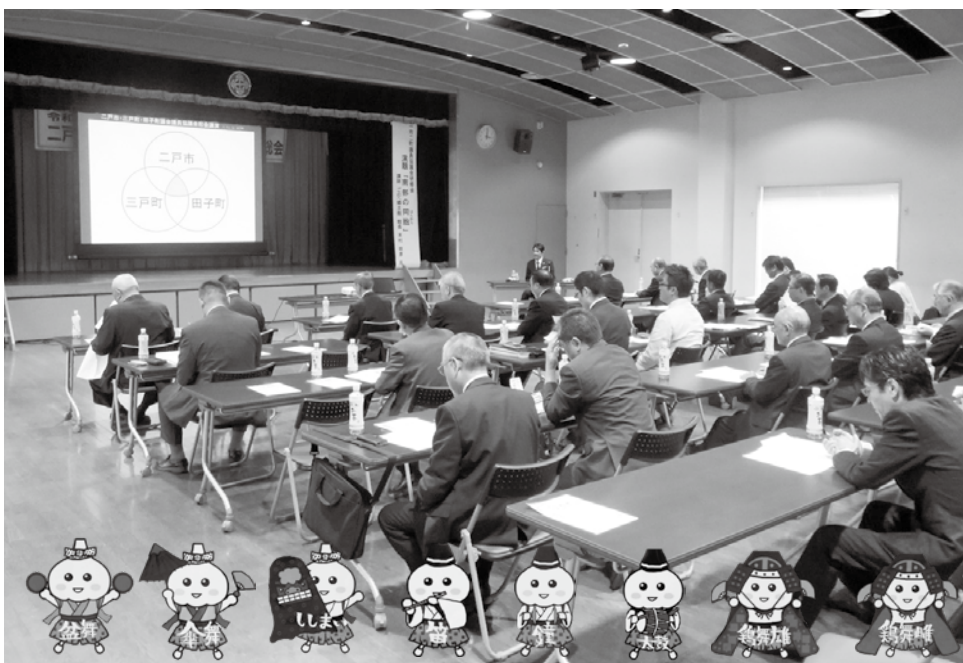
ごのへ郷土館
館長 木村 明彦

著書
Nobu と Toshi 南部信直・南部利直

令和元年10月16日、田子町中央公民館にて二戸市・三戸町・田子町議会議員協議会研修会が開催されました。講師には、ごのへ郷土館館長の木村明彦氏を迎え「南部の同胞」についてご講話いただきました。木村館長は南部藩について著書も出版され、国史跡「聖寿寺館跡」の解説ボランティアや三戸城本丸石垣調査事業に取り組んでおられます。

研修会では、同一領の糠部や1市2町を含む南部藩と呼ばれた時代からの繋がりを活かした農業や産業の発展、行政の連携を歴史をきっかけにして取り組み、観光業等への広域交流に結びつけていくなど、様々な可能性を示していただき、協議会研修会が実り多いものとなりました。

(尾形 憲男)



田子神楽も南部藩と繋がりが深く、郷土芸能や各地域に残る伝承は、そこに住んでいる人でも知らないことや新たな発見があり、大いに興味を駆り立てられる。

南部藩の繋がりがから広域にわたり、様々なアクションを検討していく

**第4回定例会
あらまし**

令和元年第4回定例会が11月29日(金)から12月3日(火)までの5日間の会期で開催されました。

11月29日には諸般の報告、議案の上程・説明がされました。

12月3日の一般質問には、2名の議員が登壇し多岐にわたり活発な議論が交わされました。

同日、陳情の付託、議案の審議、議員派遣の件、各常任委員会に係る所管事務調査の承認が行われました。また、追加議案の上程・説明がされ審議されました。

審議結果

令和元年12月定例会で審議した議案と、その結果を一覧で掲載します。

議案番号	件名と主な内容	議決結果
議案第53号	災害弔慰金の支給等に関する条例の一部改正について	原案承認 (賛9・否0)
議案第54号	田子町森林環境譲与税基金条例の制定について	原案可決 (賛9・否0)
議案第55号	田子町水道事業給水条例の一部改正について	原案可決 (賛9・否0)
議案第56号	地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について	原案可決 (賛9・否0)
議案第57号	成年被後見人等の権利の制限に係る措置の適正化等を図るための関係条例の整備に関する条例の制定について	原案可決 (賛9・否0)
議案第58号	令和元年度田子町一般会計補正予算(第4号)について	原案可決 (賛9・否0)
議案第59号	令和元年度田子町国民健康保険事業勘定特別会計補正予算(第3号)について	原案可決 (賛9・否0)
議案第60号	令和元年度田子町介護保険事業勘定特別会計補正予算(第3号)について	原案可決 (賛9・否0)
議案第61号	令和元年度田子町国民健康保険町立田子診療所及び介護老人保健施設事業特別会計補正予算(第2号)について	原案可決 (賛9・否0)
議案第62号	青森県市町村職員退職手当組合を組織する地方公共団体の数の減少及び青森県市町村職員退職手当組合同約の変更について	原案可決 (賛9・否0)
議案第63号	令和元年度田子町一般会計補正予算(第5号)について	原案可決 (賛9・否0)



宇藤 大介 議員

高齢者福祉・介護について

質 人生百年時代と言われる昨今、75歳以上のおよそ3人に1人が介護を必要としている。

厚労省の発表によると2025年には65歳以上の高齢者の約5人に1人が要支援・要介護に認定されるとの見込みも示されている。

また、同省試算による男性の平均寿命は81・9歳、自立して健康に生活できる「健康寿命」は72・1歳、女性の平均寿命87・2歳、健康寿命は74・7歳となっており、つまり男性では亡くなるまでの約9年間、女性では約

12年の間、なんらかの介護等が必要になるとの指標も出ている。要介護を防ぎ、元気な老後を今後町民皆が恙無く送るための持続可能な環境をどのように構築し、描いていくつもりであるのか。



→町内の町立診療所。老健は、建物の老朽化や働き手の不足など様々な問題を抱えている。しかし、この施設に限ったことではなく、これからは地域全体の問題として、改善へ取り組んで行かなければならない。

答 団塊の世代が、75歳の後期高齢者になる2025年問題をはじめとする、国の福祉分野に関する財源問題などに対して、その動向について注視している。

田子町の高齢者人口のピークは2020年頃、そして高齢化率のピークは2040年頃と予測しており、今後は更に、高齢者世帯・独り暮らし世帯・地域の中の空き家が増えたりと、生活への不安が増すと考えている。町としてこれからの諸問題への対応策として、

若いうちからの健康維持と介護予防、地域コミュニティの推進に重点を置き、事業に取り組んでいく。その中でも一番の基本となる部分は、心と体の健康を維持すること。高齢になっても元気に毎日を過ごせるよう、毎年の健診や早めの病院受診、介護予防運動や認知症

予防教室、筋力維持体操などへの取り組みを進めており、地域で行われている健康教室などには、町の保健師と保健推進員が一緒になって普及活動に取り組んでいる。

健康管理、その後の医療サービスや介護予防を踏まえた上での介護サービスの提供という形をイメージしている。



→町内の介護施設等、施設サービスと在宅サービスの充実が求められる。

介護に関わる人材育成のため、介護スキルの向上を目的とした、受講料無料の介護職員初任者研修を実施している。自宅で要介護3以上の家族を介護している者への補助金については、本年度から国の交付基準が厳格化されたが、町としては在宅介護に携わる家族への慰労の意味を尊重し、従前どおりの基準で助成することで事業は継続中である。

質 医療費や介護費用の増は、社会保障制度の持続可能性を危ぶむものとの認識のもと利用者負担を考慮した上で、のきめ細やかな対応の強化、環境の充実を望む。これからの町の福祉・介護の展望を総括していただきたい。

答 これから大事になってくるのは、現在暮らしている高齢者、それを遠くにいる家族がどんなふうにかサポートしているのかということ。この関係性の強化に町としてもしっかりとサポートしていく。当事者・家族・町が協定を結び、見守りを強化できる体制のあり方を検討・協議してまいりたい。



→町内の介護施設等、施設サービスと在宅サービスの充実が求められる。



山崎 美代志 議員

森林環境譲与税 について

質 令和元年度より国から「森林環境譲与税」が譲与されるが、当町への配分額が1118万4千円と総務省から公表されましたが、当町における具体的な使途などについて伺いたい。

答 森林の間伐や林業の人材育成・担い手の確保、木材利用の促進や啓発等の森林整備及びその促進に関する費用に充てなければならぬとされていることから、今後、町有林を含めた町の森林整備計画を策定する必要があ

ります。この森林整備計画を策定し、年次計画をもとに保育並びに伐採を実施したいと考えており、用途が決定するまで「田子町森林環境譲与税基金」に積立てを行うこととして

肉用牛の振興について

質 町内における肉用牛の繁殖牛及び肥育牛の町有牛の貸付状況及び各牧野組合等における草地更新の現状について伺いたい。

答 平成30年度決算の状況では、繁殖牛を導入するための「高齢者等肉用牛導入事業基金」の活用状況は、20頭で約502万円の貸付となつている。また、肥育素牛を導入するための「肥育素牛購入基金」の活用状況は、41頭で約2904万円の貸付

となつている。また、各牧野組合等における草地更新の状況は、各牧野組合とも放牧頭数が減少していることから、現状維持が精一杯な状況であるため、どの牧野組合も草地更新ができない状況である。今後、町としては、現状と課題を把握し必要に応じた支援を行いたいと考えている。

道の駅について

質 町が実施している道の駅実証事業（産直運営）の売上状況及び現段階での道の駅整備に係る検討・協議内容について伺いたい。

答 11月24日までのたつこ産直友の会が販売した売上総額は、店舗営業日数106日、町内外での販売イベント等42回の販売収入を含め、約1千万円となつ

ている。また、現段階での道の駅整備に係る検討・協議内容は、道の駅づくりワーキング座談会6回を開催し、当町の道の駅が持つべき施設・機能の絞り込み作業を進めている段階である。更に、「道の駅準備検討会」を本年9月より新たに設置し、道の駅に必要な機能・施設の規模、管理運営形態など、検討・協議を進めている。

県立田子高校 について

質 10月23日、県教育委員会から、募集停止の発表がなされた訳だが、これまで県教育委員会との協議内容及び今後に向けた検討などの方向性について、町長及び教育長の認識を伺いたい。

答 今年度に入り、募集停止に向けての協議

のため、県教育委員会から職員が来町し協議が行われた。1点目は、「高校への通学が困難となる地域の生徒の通学に係る対応」について、2点目は、「閉校後の各種証明書の発行や指導要録等の引継ぎ」について、3点目は、「閉校後の各種物品等の保管場所」について、また、3回目の協議からは、次の2点加わった。1つは、「連携型中高一貫教育の在り方」について、もう1点は、「田子高校における郷土芸能に関する取り組み」について検討を進めているとのことであった。町としては、協議の中で県教育委員会から提示された項目に加え、次の4つのことを強く訴えた。一つ目は、「中山間地にある町村から高校が無くなることの検証」二つ目は、「通学や下宿等の負担に対する支援等の検討」三つ

目は、「遠距離に通学することでの勉強や部活動などへの様々な影響」四つ目は、「町外の高校に通うことにより地域を継承していく人材への不安」など、高校生と保護者に多大な負担がかからないように、今後、町としても考え、県にもしっかりと働きかけていきたい。



→ 田子高校の田子町に対する地域貢献度は非常に高く、募集停止は非常に残念だが田子町の未来担う若者の為に、今できることを協議し最大限の努力をしていく。

議会運営委員会（議会広報編集委員会）

【構成委員】 宮村尚哉委員長 宇藤大介副委員長 尾形憲男委員
 沢口博二委員 欠端則夫委員

協議

○実施日 11月15日
 11月29日開会の令和元年田子町議会第4回定例会の議事日程等について。

議会広報編集委員会

○実施日 11月5日

議会日より第101号の発行に向けて、内容確認、誤字・脱字・レイアウトについて校正を行いました。その後、11月8日に再度委員会を招集して最終校正を行い、11月21日に議会日より発行。

○実施日 11月15日

議会日より第102号の発行について、掲載内容と原稿を作成する担当者を決め、1月23日の発行を目標に作業を進める。

総務・文教常任委員会

【構成委員】 宇藤大介委員長 尾形憲男副委員長 樺本義見委員
 山崎美代志委員 澤口勝委員

○実施日 11月7日

教育課

県立田子高校について、県教育委員会と募集停止に向けて協議を進めてきた。通学が困難な生徒への対応や各種証明書の発行、連携型中高一貫教育の在り方など様々な面において協議しており、今後も働きかけや支援をお願いして行く。

総務課

消防・防災関係では、台風19号に伴う対応状況の説明があり、被害状況は、人的被害や住宅等の被害は無かった。

政策推進課

八戸圏域連携中枢都市圏連携事業に係る検討状況について、東京都内における地域産品の販路拡大やファンクラブ機能、交流促進機能を備えた「交流プラザ運営事業」などが検討されている。

住民課

路線バスの利便性向上を図るため、田子町から八戸市直行運行、乗継乗車券の値引きの検討、田子町内での運賃低廉化の検討を進めている。委員からは、乗継の不便や運賃の高止まりなど格差があることから、検討を求める意見が出された。

税務課

ふるさと納税は、10月末の寄付件数・寄付金額は昨年を下回っているが、今後、年末に向けて魅力ある返礼品を検討し、寄付の使い道についてもこれまで以上に周知をしていきたい。

産業・民生常任委員会

【構成委員】 欠端則夫委員長 宮村尚哉副委員長 蹴揚清人委員
 沢口博二委員 北田騰委員

○実施日 11月6日

診療所・老健施設

12月補正予算で、人事異動に伴う人件費の補正を行う。

地域包括支援課

12月補正予算で、主な項目として、インフルエンザの予防接種人数や接種費用単価の見直しによるインフルエンザ予防接種補助金の増額や町内医療法人の補助事業中止に伴う歳入歳出の補正をする。

住民課

10月1日に実施された消費税の引き上げにより低所得世帯等の消費影響緩和のための、プレミアム付き商品券発行事業について、申請を受付中だが住民税非課税者からの申請率が低いことから、期限までに申請して頂くよう周知していく。

建設課

町道等の整備状況並びに水道事業関係では、主な工事は発注済みであり、順調に進捗している。

産業振興課

たっこにんにくオリジナル種子の植え付け状況と「美六姫生産者の会」設立状況、オリジナル種子の施肥試験実施について説明がありました。農産物の病害虫対策については、水稻では一部でカメ虫被害が確認されている。葉たばこについては、病害虫の被害も少なく収量も平年を上回る予定である。

農業委員会

10月までの農地の利用状況について。



11月23日、東京田子会総会及び交流会が開催されました。議員団からは澤口議長と尾形副議長、樺本議員と私の4名が参加させていただきました。役員との懇談会では今年の夏に行われた神楽坂での「田子神楽、ナニヤドヤラ公演」と「東北復興大祭典なかの」が話題

となり、神楽坂商店街から田子産の食材を使用したフェアの開催や加工品を展示・販売が出来ないかなど相談されているとのことでした。

交流会では、来賓を含め70名弱の参加でした。地元の郷土料理に舌鼓を打ちながら懐かしんでおられました。長年離れていても地元を思う気持ちには本当に感謝してまいりました。交流会中には、神楽坂公演の様子の映像をながし、おおいに盛り上がった一夜でした。

(宮村 尚哉)





中野駅北口

2019東北復興大祭典なかの

東日本大震災及び熊本地震の復興支援のためのイベント「東北復興大祭典なかの」が10月26日(土)・27日(日)に開催されました。

田子町からは、ナニヤドヤラ保存会の皆さんが参加しました。

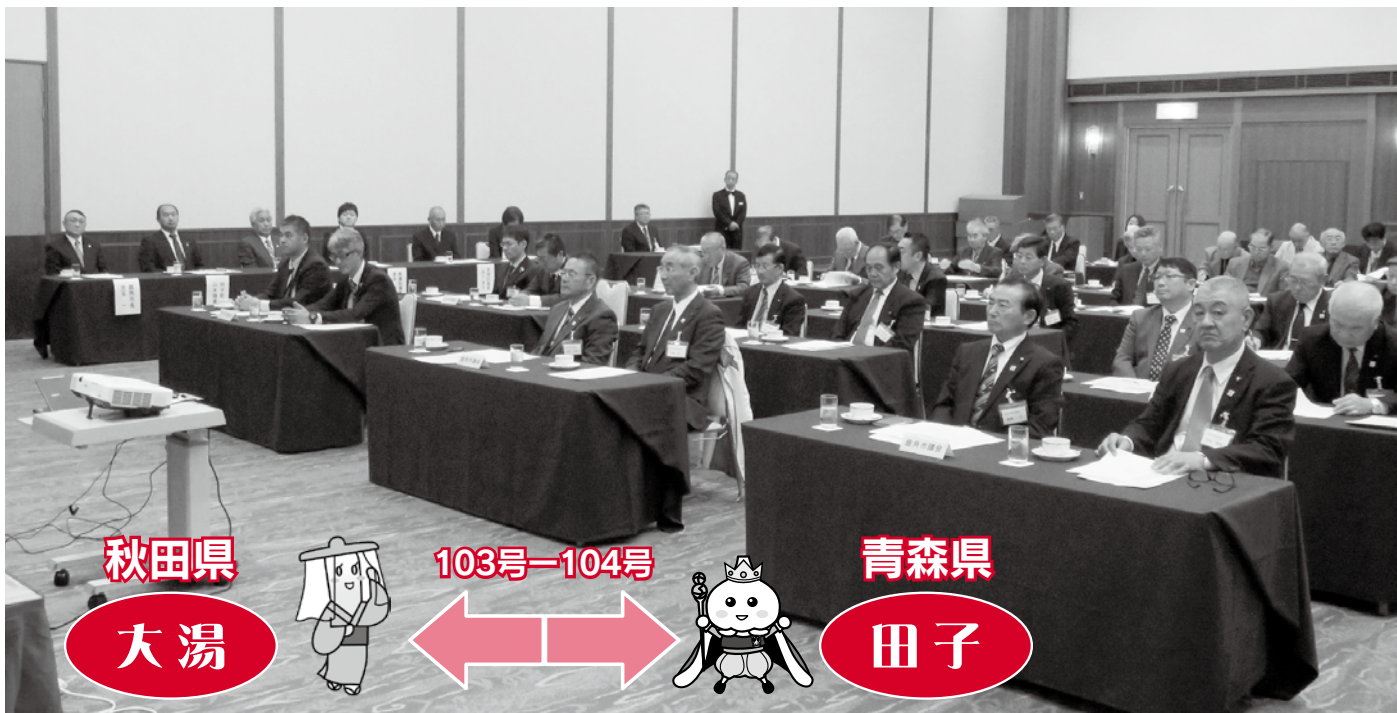
中野サンプラザ広場のメインステージで12時から太鼓隊、踊り隊が流し踊りを披露しました。14時40分から中野駅北口にて2回目を、流し踊りの前後には、山形の花笠や盛岡さんさ踊りなど東北の祭りが見られた。中野区役所前広場では、農水産物の物販&グルメブースが開かれ、田子町からもにんにく等を販売し様子を視察した。その後、酒井直人中野区長を表敬訪問した。この祭りを通して各地の伝統芸能は、これからも人々を魅了していくことでしょう。

(尾形 憲男)

中野サンプラザ広場



世紀越えトンネル全体会



秋田県

大湯

103号-104号

青森県

田子

令和元年11月5日(火)、秋田県鹿角市 ホテル鹿角にて、令和元年度世紀越えトンネル建設加速化市町議会協議会全体会が開催されました。

国会議員や県議会議員、鹿角市長、田子町長をはじめ会場には多くの方にご参加していただきました。また、秋田県鹿角地域振興局 建設部長 田森様から講話をいただき、大きく歩を進めた当協議会にとってとても有意義な会となりました。しかし、これに満足することなく早期着工を目指して青森県・秋田県の両県へ要望活動を行い、様々な関係機関へ働きかけて行きたいと決意いたしました。

(澤口 勝)



多くの来賓の方々に賛同していただきました

謹賀新年



田子町議会 議長
澤口 勝

新年のごあいさつ

町民の皆様、新年あけましておめでとうございませう。

町議会を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

希望に満ちた輝かしい令和初の新春をご健勝にてお迎えのことと、心からお喜び申し上げます。また日頃より本町の町政運営ならびに議会活動に対しまして温かいご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

本年も全議員が一丸となり、田子町の豊かな町政運営の実現と発展に尽くしてまいりますので、さらなるご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。新年のごあいさつとさせていただきます。

○台風19号の被害に遭われた皆様へ

お見舞い申し上げます

このたび台風19号の被害により、犠牲になられた方々に哀悼の意を表し、被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

皆様の安全と一日も早い復旧を心からお祈り申し上げます。

我が田子町と相互援助協定を結んでいる友好都市でもあります、千葉県多古町も多大なる被害を受けたと聞いております。また、建物や農作物等、被害を受けなかった皆様も心の傷は計り知れません。

我々は、多古町の皆様が、大きな苦難を乗り越えて復興へ向け立ち上がっているものと信じております。そして、これからも友好都市として、友として最大限の協力を惜しまない気持ちであります。

被災地の皆さんが一日も早く普段の生活を取り戻すことを、議会議員一同、心よりお祈り申し上げます。

(田子町議会議員一同)

編集後記

新年あけましておめでとうございます。田子町議会、たよりも、皆様のご協力のおかげで102号を発行することができました。

我々の目標としていた「手に取ってもらえる議会だより」も一歩ずつ進み「楽しみだ」と言ってもらえるようになってきました。これからは「多くの方々に取り、読んでもらえる」を目標に試行錯誤し取り組んでいきたいと思っております。本年もよろしくお願いたします。

(宮村 尚哉)

発行・編集責任者

議長 澤口 勝

議会広報編集委員会

(102号)

委員長 宮村 尚哉

副委員長 宇藤 大介

委員 尾形 憲男

欠端 則夫

沢口 博二

執筆協力

山崎美代志